

令和6年度 第1回 清瀬市史編さん委員会 議 事 要 旨

日 時： 令和6年11月29日（金）午後2時～3時40分
場 所： 市民協働ルーム（本庁舎2階）
出席委員： 根岸茂夫、栗山 究、浅倉直美、吉田律人、齊藤隆雄、坂間利司、黒田一美、
小林典子、今村広司（9名）
欠席委員： 黒尾和久、黒川徳男、高久 舞（3名）
事 務 局： 経営政策部参事、市史編さん室職員2名（3名）

《次 第》

1. 開 会
2. 『清瀬市史 5 資料編 近代』について
3. 専門部会活動状況について
4. 通史について
5. 『市史研究 きよせ』第10号について
6. 市史講演会について
7. その他
8. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（令和5年度 第1回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 『清瀬市史 5 資料編 近代』目次構成【資料 I】
3. 『清瀬市史 1 通史 上巻』構成案【資料 III-1】
4. 『清瀬市史 2 通史 下巻』構成案【資料 III-2】

《審議経過》

1. 開 会

事 務 局 これより令和6年度第1回清瀬市史編さん委員会を開催いたします。
このたびは委員任期が改まり、再任の方と新任の方がいらっしゃいますので、まずは自己紹介を席の順にお願いします。

（各出席委員自己紹介）

事 務 局 ありがとうございました。続きまして、委員長、副委員長の選出を行ないたいと思います。どなたかご推薦いただけますでしょうか。

委 員 根岸先生を委員長に推薦したいと思います。

事 務 局 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

委 員 （拍手で承認）

事務局 それでは、根岸委員長よろしくお願いいいたします。
続きまして副委員長にどなたかご推薦いただけますか。

委員 ぜひ栗山委員にお願いしたいです。

事務局 よろしいでしょうか。

委員 (拍手で承認)

事務局 では、根岸委員長、栗山副委員長よろしくお願いいいたします。
委員長が選出されましたので、これより今日の次第について、根岸委員長よろしくお願いいいたします。

2. 『清瀬市史 5 資料編 近代』について

委員長 では、議事に入ります。まず『清瀬市史 5 資料編 近代』について、進捗状況を事務局からお話いただけますか。

事務局 現在、先生方にお書きいただいた原稿を、順次入稿しているところです。これから校正を経て、なるべく早めの刊行に結びつけたいと考えております。

委員長 では、詳細につきまして、近代部会長の吉田先生からお願いします。

近代部会長 内容につきましては、お手元の資料【資料Ⅰ】をご覧ください。
(目次に沿って内容詳細について説明)

委員長 ありがとうございます。『清瀬市史 5 資料編 近代』についてお話しいただきましたが、ご質問、ご意見なにかございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

委員 了承

3. 専門部会の活動状況について

委員長 続きまして、各専門部会から活動報告をお願いいたします。
考古部会につきましては、部会長がいらっしゃいませんので、市史編さん室の考古部会担当の方からお願いできますか。

事務局 考古部会では、昨年度末に『清瀬市史 7 資料編 考古』を刊行しました。4月に部会を開き、内容の点検を行い、正誤表に記載すべき項目を検討しました。正誤表は5月15日の販売開始に間に合うように作成し、挟み込んだうえで販売するという手順を踏みました。
通史に向けての動きを、それぞれの時代の部会の進行状況に合わせて進めていただいているところです。

今年度の活動としては、資料編に掲載した図のデータの取りまとめを行なっていきたいと考えています。

委員長 ありがとうございました。次に古代・中世部会について、浅倉先生お願いします。

古代・中世部会長 令和２年度に『清瀬市史 ３ 資料編 古代・中世』を刊行しましたときには所在がわからなかったり許可が下りなかった文書があったのですが、その調査を昨年度２月にさせていただいて、文書写真がまた５点ほど手に入りました。
今年度は通史に向けて、目次を検討したり、最新の研究成果を確認し合う部会を開催しているところです。
課題は、調査時の写真データの整理です。膨大な量のデータがあるのですが、名前付けをして整理する必要があります。学生らの力を借り、予算について編さん室とご相談しながら進めていきたいと考えています。

委員長／
近世部会長 ありがとうございました。次に、近世部会について、私からご報告します。
今年度は通史に向けての活動で、２か月に１回程度集まって、問題点や進捗状況を話し合っています。
課題としては、市内の未整理の資料について、整理はほぼできているのですが一覧表にして目録を作成するところまで至っていないということがあります。
以上です。
続きまして、近代部会について吉田先生お願いします。

近代部会長 現代部会長の黒川先生が本日ご欠席ですので、近代部会と現代部会について合わせて私から報告します。
鋭意、資料編近代の刊行に向けて活動しており、学生の調査員を使って史料の整理、翻刻作業を進めています。資料編掲載の史料についての作業が終わったら、通史に向けての作業に移っていきます。
通史については、黒川先生から下巻の目次が上ってきていますので、それに沿って進んでいきたいと思っています。以上です。

委員長 ありがとうございます。では、次に民俗部会、結核療養部会について部会長がご欠席ですので、事務局からご説明をお願いします。

事務局 民俗部会については、市内のいろいろな催し物や伝統行事などに専門調査員が顔を出し調査をすすめているということです。
結核療養部会につきましても、いろいろな聞き取り調査を進めるほか、文学と結核療養関連の調査も、市史編さん室も含め進めており、現在、中央図書館と郷土博物館で文学展示を行ない成果を公表しているところです。療養作家の生誕百年を記念して「吉行淳之介・古賀まり子 生誕百年記念 きよせ結核療養文学展示」として行なっています。
以上です。

委員長 ありがとうございました。各部会の活動状況をご報告いただきましたが、なにかご意見、ご質問いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

委 員 長 了承

4. 通史について

委 員 長 続いて、通史について、まず事務局からご説明いただきます。

事 務 局 『清瀬市史 1 通史 上巻』を令和8年度に刊行することになりました。通史の検討のための会を組織しなくてはならないと考えています。各部会の先生方にご協力いただきながら進めたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

通史上巻については、先史、古代・中世、近世までの時代を、また下巻では、近代、現代と民俗、結核療養についてまとめていただくことになっています。

事務局からは以上です。

委 員 長 通史は上下 2 巻に分かれ、上巻は先史から近世までということで、令和8年度に刊行するという事です。上巻の構成案をお配りしています。先史については検討中なのですが、古代・中世について浅倉先生、ご説明いただけますか。

古代・中世部会長 自治体史の通史ですので、資料編をふまえての構成になりますが、古代に関して、この市史編さん事業がスタートしたときに市長からぜひともご要望がありましたので資料編では悲田処のことに特にふれましたが、通史では中に含めて構成することになります。

中世は、時代的に、鎌倉、南北朝・室町、戦国という3章構成にしまして、それぞれ資料編を担当した者が与えられた分量のなかで清瀬を中心にした歴史が通観できるように執筆を進めてまいります。

第二部 古代・中世のうち、第一章「古代」のうちの一つの節と、第五章「中世の遺跡と遺物」に考古的な執筆をお願いしております。今後すり合わせをしながら、全体的なバランスを見つつ 100 ページくらいで執筆するという当初の設定に沿って目次を考えているところです。以上です。

委 員 長 ありがとうございます。

近世については、1590 年（天正 18 年）徳川氏が関東に入り、この地域の旗本の領地になった、というところから書き起こします。基本的には市内の古文書を多角的に使っていきますが、1650 年前後まで、市内には近世の古文書がありません。それ以前は国立公文書館などにある江戸幕府の古文書を使いながら、あるいは清瀬に領主として入った旗本の史料を使いながら書いております。

配布の【資料 III-1】にある通り、第 3 部近世では 15 の章を立てまして、「村のなりたち」「村のすがた」「村のわくぐみ」「村の自治と負担」「鷹場の村」「村の文書」「村のくらし」「村のなりわい」「広がる地域と自治」「災害と御救い・貯穀」「旗本と村」「寺社と信仰」「村の手習いと俳諧・文芸」「講と旅の見聞」「村の幕末」という目次に沿って時代の流れをまとめていきます。近世は以上で、通史上巻はここまでということになり

ます。

下巻の目次は、吉田先生、黒川先生を中心に検討していただいているところと思いますが、説明をお願いしますか。

近代部会長

資料にある目次は黒川先生が出して下さったものです。近代は今年度刊行の資料編に関わっていますし、民俗、結核療養は調査中ということで、大まかにどうするかということで考えていただきました。明治から昭和、平成までの通史 3 章と、結核療養、民俗という 5 つの章構成になっています。

書き進めるなかで近現代の史料はまた出てくるかと思いますが、そうしたものも取り入れながら書いていきたいと思っています。

委員長

ありがとうございます。

通史につきまして、なにかご意見、ご質問いかがでしょうか。

委員

江戸の博物学者武蔵石寿について通史のなかで清瀬との関係を書いていただけるとよいと思います。

委員長

石寿がつくった昆虫標本は、現在、東京大学の博物館にあり、日本最古のものと言われています。石寿はやっかいな旗本で、中里村に年貢ばかり要求するところしか文書には出てきませんので、どこまでわかるかというところではありますが、可能な限り書きたいと思います。

ほかに、いかがでしょうか。

委員

下宿に水車があったことは、絵図にも載っていますし、わかっていますが、中里の水車について、記録、あるいは聞取りができたなら残しておいていただけるとよいと思います。

委員長

水車は明治になってかなり造られるので、あったとして、それが江戸時代のものだったかどうか。地図に載っている水車というのは、おそらく明治の迅速図あたりかと思われます。野塩の水車は江戸時代の文書に出てきます。

委員

基本的なことですが、史料の取捨選択について基準があるのでしょうか。

委員長

良い史料ではあるが、紙幅の関係で泣く泣く載せられなかったものは、あります。市史研究などを市史終了後も続けていただいて、未掲載や新出の史料を発表し続けることがよいと思います。清瀬も数十年後にまた市史を編さんすることになるでしょうが、こうした蓄積が次のときに役立つものになります。

委員

自然について、通史下巻のなかに戦後・平成の清瀬という項目がありますので、そこでぜひ扱ってほしいです。

近代部会長

現代部会長にも伝えながら進めたいと思います。

委員

もうひとつ、今の時代、できるだけビジュアルなものにしていだけ

たらと思います。

委員長 議論しているところですが、最近の市町村史はカラーにしたり図版を豊富にしたりしていますので、その辺りは考えていけたらと思います。ほかによろしいでしょうか。

委員 了承

5.『市史研究 きよせ』第10号について

委員長 では次に、『市史研究 きよせ』第10号について、事務局からお願いします。

事務局 今年度末に『市史研究 きよせ』第10号を刊行する予定です。
区切りの号ということで、少しページ数を増やしまして、清瀬市史のこれまでの振り返る特集を考えています。また、「石碑・石仏探訪」のコーナーも継続したいと考えております。できれば新しい委員の方々に書いていただけたらと考えています。みなさまのご協力をよろしくお願いします。

委員長 ありがとうございます。『市史研究 きよせ』第10号につきまして、なにかご意見、ご質問ございますでしょうか。
よろしいでしょうか。

委員 了承

委員長 では、ご協力よろしくお願いします。

6.市史講演会について

委員長 次に、市史講演会について、事務局からお願いします。

事務局 10月15日に、考古部会の青木敬先生に「清瀬の古代と集落遺跡」と題しまして、律令国家の始まりから国分寺の設置といったこの時代の枠組みから、清瀬の古代集落についてお話しいただきました。25名の参加がありました。

下宿内山遺跡についても、8世紀に始まった国府主導による開発との関連を示していただきました。悲田処については、清瀬の遺跡の調査からは特定はできないというお話でした。

アンケートには、わかりやすくよかった、また聞きたいといった感想が寄せられました。以上です。

委員長 ありがとうございます。

7.その他

- 委 員 長 その他について、事務局から何かありますでしょうか。
- 事 務 局 これまで出した刊行物の正誤表をホームページに掲載し、また販売の際に刊行物に挟み込みたいと考えています。現在把握されているものについて、年度末までに事務局にお知らせいただければと思います。
- 古代・中世部会長 通史を書くなかで出てくると思うので、今年度末で区切らない方がよいかと思います。
- 近代部会長 執筆担当についても明らかにした方がよいという指摘もあり、最後にそれも含めて出すのがよいと思います。
- 委 員 他市の例で、刊行後も編さん委員会が続いているという話がありました。委員会でなくてもよいのですが、市史に関して役所のなかで後の面倒を見る担当がはっきりとあったほうがよいと思います。年数が経っても正誤を受け付けてもらえるようなフォローをする、部署とまでいわずとも担当があった方がよいと思います。
- 古代・中世部会長 多くの調査をした古代・中世でいうと、文書の所蔵者に問い合わせが行ったときに、清瀬が画像を持っているから清瀬にきいてください、と言われることがあると思います。その時に、それがどこにいったか分からないというようでは、市としての姿勢が問われると思います。
- 事 務 局 令和 10 年度で市史編さん事業が終了しますが、そのあとは博物館で引き継げるようにしたいと考えているところです。今まで博物館は事業担当だけでしたが、資料収集保存担当という形で置き、担当させたいと思います。
- 委 員 長 ありがとうございます。なにかご意見いかがでしょうか。
よろしいでしょうか。
- 委 員 了承
- 事 務 局 次の委員会ですが、3 月後半に予定したいと思います。具体的な日程はあらためて調整させていただきますのでよろしくお願いします。

8. 閉 会

- 委 員 長 他になければ、これで令和 6 年度第 1 回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

令和 6 年度第 1 回清瀬市史編さん委員会配布資料①（近代部会）

『清瀬市史 5 資料編 近代』目次構成

2024（令和 6）年 11 月 12 日

近代部会長 吉田律人

口絵

編集にあたって（吉田律人）

目次・細目次

凡例

第一章 清瀬のすがた

第一節 明治・大正期の清瀬

第二節 清瀬の人びと

第二章 人びとの生活―「村野谷吉日記」より

第一節 明治十七年（一八八四）

第二節 明治十八年（一八八五）

第三節 明治十九年（一八八六）

第四節 明治二十年（一八八七）

第五節 明治二十一年（一八八八）

第三章 清瀬村の政治と行政

第一節 清瀬村の誕生

第二節 清瀬と政党

第三節 清瀬村役場の告示録

第四節 清瀬の警察・消防

第四節 明治期の清瀬村会

第一節 明治二十年代の清瀬村会

第二節 明治三十年代の清瀬村会

第三節 明治四十年代の清瀬村会

第五章 日清・日露戦争と清瀬

第一節 徴兵制度と軍事演習の展開

第二節 日清・日露戦争と清瀬

第三節 在郷軍人会の誕生

第六章 清瀬の教育

第一節 小学校の始まり

第二節 小学校の再編成

清瀬市史 通史上巻 構成案

第1部 先史

(古墳時代については 第1部に含めるか)

第2部 古代・中世

第1章 古代

第1節 古代の武蔵国 (古谷)

第2節 多摩郡と入間郡 (古谷)

第3節 開発の進展とくらし (青木)

第2章 鎌倉時代

第1節 清瀬周辺の荘園公領 (今野)

第2節 村山党と片山氏 (今野)

第3節 鎌倉幕府と清瀬 (今野)

第3章 南北朝・室町時代

第1節 南北朝～室町期の多東郡 (木下)

第2節 武蔵国と山内上杉氏 (木下)

第3節 大石氏一族 (小川)

第4節 大石氏と多東郡 (小川)

第4章 戦国時代

第1節 享徳の乱から川越合戦 (長塚)

第2節 北条氏の多東郡支配 (長塚)

第3節 十玉坊と清瀬宿 (浅倉)

第4節 由井・滝山の氏照 (浅倉)

第5節 北条時代の清戸番所 (黒田)

第6節 八王子の氏照 (黒田)

第5章 中世の遺跡と遺物 (仮題)

第1節 (水口)

第2節 (深澤)

第3部 近世

第1章 村のなりたち (根岸)

第1節 徳川氏の関東入封と旗本

第2節 下宿村と太田・石川氏

第3節 中里村と武蔵氏

第4節 野塩村と向坂氏

第5節 市域と初期の代官

第6節 旗本陣屋の遺構と建物 (中野)

第7節 芝山十玉坊の動向

- 第2章 村のすがた (根岸)
- 第1節 多摩・入間・新座郡の境目
 - 第2節 野塩村
 - 第3節 中里村
 - 第4節 下宿村
 - 第5節 下清戸村
 - 第6節 中清戸村
 - 第7節 上清戸村
 - 第8節 引又道・清戸道・大岱道・所沢道
- 第3章 村のわくぐみ (榎本)
- 第1節 江戸時代の村
 - 第2節 清戸上町の寛文・元禄検地 (清水)
 - 第3節 野塩村の元禄検地と幕領編入 (清水)
 - 第4節 上清戸村の元禄時代
 - 第5節 野火止の開発 (清水)
 - 第6節 武蔵野新田の開発 (清水)
- 第4章 村の自治と負担 (榎本)
- 第1節 村の行政と村請制
 - 第2節 村役人とその仕事
 - 第3節 年貢のしくみ
 - 第4節 各村の年貢
 - 第5節 村の財政
 - 第6節 様々な村役
- 第5章 鷹場の村 (清水)
- 第1節 尾張徳川家の鷹狩と市域
 - 第2節 鷹場陣屋と清戸御殿
 - 第3節 鷹場預り
 - 第4節 鷹場の負担と規制
- 第6章 村の文書 (榎本)
- 第1節 各村の文書群
 - 第2節 文書による政治
 - 第3節 印鑑を持つ百姓
 - 第4節 証文と帳簿
 - 第5節 文書による保証
 - 第6節 由緒と格式
- 第7章 村のくらし (實松)

第1節	村の家族	
第2節	村人の一生	
第3節	村人のつきあい	
第4節	村人の衣食住	
第5節	発掘された村の生活	(石井)
第8章	村のなりわい	(関口)
第1節	田畑の耕作と水利・秣場	
第2節	融通と質地	
第3節	農間余業	
第4節	水車の稼働と水車仲間の動向	
第5節	荷物の運送と新河岸舟運	
第6節	江戸への出稼ぎと移住	
第9章	広がる地域と自治	(栗原)
第1節	寛政改革と村	(栗原)
第2節	さまざまな村方騒動	(栗原)
第3節	文政改革の実施	(関口)
第4節	自治を拡大する地域	(関口)
第5節	天保改革と村	(栗原)
第6節	代官と手付・手代	(清水)
第10章	災害と御救い・貯穀	(栗原)
第1節	江戸時代の災害	
第2節	御救いと合力	
第3節	村に蓄えられた稗	
第4節	さまざまな貯蔵施設	
第11章	旗本と村	(根岸)
第1節	中里村の地頭武蔵氏	
第2節	武蔵氏の財政と年貢先納	
第3節	中里村の対応	
第4節	武蔵石寿の本草学	
第12章	寺社と信仰	(太田)
第1節	寺院の創設と修造	
第2節	寺院の継承と寺格直し	
第3節	神社の勧請と遷宮	
第4節	神楽と祭礼	
第13章	村の手習いと俳諧・文芸	(太田)

- 第1節 寺子屋と手習い
- 第2節 実践的知識
- 第3節 俳諧の流行

第14章 講と旅の見聞 (太田)

- 第1節 石造物と村の講
- 第2節 代参講
- 第3節 富士講の発展
- 第4節 旅の記録 (松尾)

第15章 村の幕末 (宮原)

- 第1節 黒船来航と清瀬の村
- 第2節 熊本藩の預地となった村
- 第3節 村の日常と重なる負担
- 第4節 代官江川の支配と清瀬の村
- 第5節 武州世直し一揆と清瀬の村
- 第6節 戊辰戦争と近代への移行

『清瀬市史 2 通史 下巻』構成 (案)

令和 6 年 11 月 29 日 (金)

1. 明治期の清瀬

明治初期の清瀬
清瀬村の成立
明治期の政治・行政
明治期の産業・交通
明治期の教育・文化
明治期の社会・軍事

2. 大正・昭和戦前戦中期の清瀬

大正・昭和初期の政治・行政
大正・昭和初期の産業・交通
大正・昭和初期の教育・文化
大正・昭和初期の社会・軍事
戦時体制下の清瀬

3. 昭和戦後・平成の清瀬

戦後改革
村から町へ
清瀬市の誕生
昭和戦後平成期の政治・行政
昭和戦後平成期の産業・交通
昭和戦後平成期の教育・文化
昭和戦後平成期の社会

4. 清瀬と結核

清瀬の「病院街」
結核療養の変遷
結核療養と文化
現代の医療

5. 清瀬の民俗と生活

社寺と年中行事
民俗芸能と伝統文化
都市化と生活の変化
文化財の保存